

高校野球を巡る特殊な環境と習慣が

招くさまざまな問題

篠木 隆馬

高校野球は春に選抜高等学校野球大会、夏に全国高等学校野球選手権大会が開催される。この両大会は阪神甲子園球場で開催される。この期間は連日、記事や報道、試合の生中継がされ、全国が注目するものとなっている。しかし、高校野球をよく見ると、ほとんどの選手の髪型が「丸刈り」であることや日本高等学校野球連盟（通称：高野連）という全国高等学校体育連盟とは別の組織が運営しており、高校野球には特殊な環境や習慣がある。

今回の研究では、高野連という特殊な組織の実態や高校野球に纏わる習慣について明らかにし、今後の高校野球のあり方について検討していくことを目的とする。

今回の研究により複数点のことが明らかになった。まず、高校野球を運営している日本高等学校野球連盟は、全国高等学校体育連盟とは別の組織であるが、他にもゴルフやアメリカンフットボールなども全国高等学校体育連盟に管轄されていないことから、高校野球だけが組織上は特殊ではないことが明らかになった。次に、高校野球の代表的な特殊な習慣である「丸刈り」は近年減少しており、習慣が薄れていることが明らかになった。最後に、体罰や選手の健康管理などさまざまな問題に対しても、ルールの追加や規定変更など対策が行われていた。

体罰や丸刈りといった古い文化は近年急速に改善されつつある。しかしながら、まだまだ道具の規定や細かい規定はまだまだ実在する。これらの規定が改善され、高校生が野球を楽しむ土壌が築かれることが望まれる。